

会議の名称	第1回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和3年11月4日(木) 19時00分～21時00分		
開催場所	茅野市役所 8階 大ホール		
出席者	※出席委員等：両角会長、守屋副会長、小平委員、宮坂委員、半田委員、鈴木委員、藤野委員、唐澤委員、伊原委員、鶴石委員、大川委員、両角(博)委員、丸茂委員 ※市側出席者：今井市長、柿澤副市長、伊藤総務部長、小平企画部長、岩島市民環境部長、平澤財政課長、有賀P推進課長、国枝職員係長、野明人材育成担当、小田島財政係長、武居コミュニティ推進係長、田中企画課長、伊藤企画係長、矢島行革・デジタル係長、藤澤主査、功力主査		
欠席者	高木委員、柿澤委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	○議事 1 開会 2 委嘱書交付 3 市長挨拶 4 自己紹介 5 正副会長選出 <b>会長に両角美智代氏、副会長に守屋正光氏が選出</b> 6 正副会長挨拶 7 諮問 8 会議内容 (1) 審議会等の公開について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> <b>* 公開を決定</b> (2) 茅野市行財政審議会の役割について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span> <b>* 了承</b> (3) これまでの行財政改革について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span> <b>* 了承</b> (4) 行財政改革における現状と課題について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5</span> <b>* 審議会の進め方について、次回の会議で議論することに決定</b> 9 その他 10 閉会  ○議事録 1 開会 令和3年度第1回審議会を開催します。 今回は任期初回の審議会となるため、市長より委嘱を行います。 2 委嘱書交付 ＝委員名簿順に市長より委嘱書の交付＝		

<p>今井市長</p>	<p>3 市長あいさつ</p> <p>2年間ご厄介になるが、よろしくお願ひしたい。</p> <p>現在、全国の地方自治体では大きく二つの課題がある。一つは人口減少・少子化高齢化、もう一つは、財政硬直化という課題。これをどう乗り切るかが今一番の課題となっている。</p> <p>人口減少は、すでに市内の様々な所に問題が出始めている。例えば消防団員確保が困難である。消防団再編計画を検討しているが、関係者と慎重に議論していく予定。加えて各区の役も一人一人の負担が大きくなっている。区長経験後、翌年の役が決まっておひ、何年も役をしなければ、回らない状況にもなっている。</p> <p>茅野市はパートナーシップのまちづくりを20年以上継続しているが、長い年月が経ち、その原点からみて少しづれが生じてきていると感じる場面もある。原点に立ち返って、パートナーシップのまちづくりについて、もう1回考え直す時期にも来ているのでないかと感じる。</p> <p>一方財政では、昭和50年代以降に公共施設が設立され、40年近く経過している。これらの建て直しやリノベーション、施設統合も考えなければいけない時期に来ている。それらをできるだけ平準化して、10年先20年先を乗り越えていくことが必要な時期に来ている。</p> <p>茅野市では、たくましくやさしいというキャッチフレーズがあるが、たくましくなければ優しくできないと解釈をしている。財政の健全化さがあってこそやさしいまちづくりを進めていくことができる。委員の知恵をいただきながら、これからの10年20年を、どう茅野市が乗り切っていくのか、その方向性が見えてくることを期待している。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>4 委員・事務局自己紹介</p> <p>5 正副会長選出</p> <p>設置条例に基づき、互選による正副会長の選出をお願ひしたい。委員の中で自薦他薦又は選出方法について意見はあるか。</p> <p>事務局に腹案はあるか</p> <p>事務局案として、会長に両角美智代委員、副会長に守屋正光委員を提案したい。</p> <p>事務局からの提案に合意いただける様であれば拍手願ひたい。</p> <p>=一同拍手=</p> <p>それでは会長副会長それぞれ席を移動願ひたい。</p> <p>=両角会長、守屋副会長移動=</p>
<p>会長</p> <p>副会長</p>	<p>6 正副会長挨拶</p> <p>皆さんのお力をいただきて、答申をまとめたい。委員のご協力をよろしくお願ひしたい。</p> <p>皆様のお力を借りながら会長をサポートし、この会の目的が達成できるように進めていきたい。よろしくお願ひしたい。</p>
	<p>7 諮問</p> <p>=今井市長より両角会長へ諮問=</p> <p>諮問内容：茅野市の行財政について目指すべき将来像を実現するための改革方針等について</p>

<p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>8 会議内容</p> <p>(1) 審議会の公開について <b>資料2</b></p> <p>「審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、会議内容は原則公開する。当審議会ではこれまで、委員名を伏したうえで議事録を公開している。これまでと同じように、審議会の内容は公開とし、議事録はホームページへ掲載していく事によいか。</p> <p>=異議なしの声有り=</p> <p>市の会議録は発言録が多い。どんな意思決定か判別しづらい。決定事項を概要の形で公表してはどうか。事務局で検討を。</p> <p>事務局で検討する。</p>
<p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>(2) 茅野市行財政審議会の役割について <b>資料3</b></p> <p>・・・資料3に基づき説明・・・</p> <p>事務局から、審議会の役割について説明があった。スケジュールはタイトになるが3月の答申に向け、茅野市の中長期を見据えた全体方針を出していくこととなる。不明点等含めご意見ご質問はあるか。</p> <p>=質疑等なし=</p>
<p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p> <p>柿澤副市長</p>	<p>(3) これまでの行財政改革について <b>資料4</b></p> <p>・・・資料4に基づき説明・・・</p> <p>これまでの行財政改革について質問等はあるか。</p> <p>これまでの経過にあったグリーンヒルズビレッジの残区画数は、226区画のうち42区画が残っている。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>今井市長</p>	<p>(4) 行財政改革における現状と課題について <b>資料5</b></p> <p>・・・資料5に基づき説明・・・</p> <p>多くの記載があるが、各項目の課題をピンポイントにまとめるとどういうことか。</p> <p>一番は人手が足りないことである。これが、住民自治を行っていく上で一番の課題。それによって従来の手法が通用をしなくなり、逆にそれを維持しようと無理をし続けることによって、若い人が近隣自治体へ家を建てるようなことが、現実には起きている。</p>
<p>柿澤副市長</p>	<p>政策運営では、政策の重点化である。これまで満遍なく予算配分してきた方法を再考する必要がある。財政運営も生産年齢人口が減り税収が落ちてくる。それをどう配分するかが大きな課題。施設縮減も従来のように公共施設を維持できないため、目的を絞って縮減することが必要。すべての事象がマンパワー不足によって引き起こされている。</p>
<p>委員</p> <p>今井市長</p>	<p>選択と集中を行いスリム化する事が、大きな改革の柱だと理解した。</p> <p>人口減少と高齢化は、全国規模の事象だが、茅野市として人口減少や高齢化は不可避ととらえるのか、頑張れば人口を増やせるとか、そのような方針を持っているか。</p> <p>移住交流事業に取組み、現状維持したいと思っている。生産年齢人口を維持していきたいというのが基本。</p>
<p>委員</p>	<p>よく話題となる消防団についても、例えば昼間地域にいる人が消火栓を扱えるようにし、団の維持以外でも地域の消防力を高めるような、経費をかけない方法も検討できる。</p> <p>また、若者に選ばれるまちを掲げているが、外の人を呼ぶ前に、地域の</p>

会長 委員	<p>若者がなぜ出てしまうのかをよく調査し、一旦市外に出て再度戻った方がどれだけいるかという指標も必要ではないか。</p> <p>今後に生かせるように、数値等あるか事務局で確認願いたい。</p> <p>公立諏訪東京理科大学の卒業生がこの地域にどの程度残っているのか。また残っている理由や他地域へ出た理由は調査しているのか。</p>
事務局	<p>公立化後、市内の入学生が10名前後ぐらい。今年は公立化して入学した生徒が初めて卒業するため、その動向はまだ掴めてない。これまでの傾向では市内就職者は約10名程度。諏訪地域では30名前後。大学では、地元就職説明会や、インターンシップ等の取り組みも実施している。ただし、なぜこの地域の企業を選ばないのかという分析はされておらず、今後そのような調査も検討したい。</p>
委員	<p>私立時代は定員300人に対し卒業生が180人程度であった。現在は300人を超える卒業生が出ている。その状況の中で諏訪地域への就職者も今後増えるの見込んでいる。ものづくりの強い企業に積極的に就職する学生もいる。この2年程コロナで会社訪問ができていないが、オンラインのインターンシップを含め積極的に支援しており、1年生2年生のうちに地元企業を知る機会を積極的に設けていきたい。</p>
委員	<p>資料中の課題で指摘されている自助・共助・公助について、区でも防災などの活動に取り組んでいるが、茅野市は区の単位が小さいため負担になっているのではないか。区や自治会の統合の動きはあるか。</p>
有賀パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>現在そういった話は把握していない。ただし数年前に、世帯減少した自治会が解散した事例がある。近隣区との統合も提案したが、条件（区費・運営方法）が異なり統合はしなかった。</p>
柿澤副市長	<p>区や自治会の部分的な連携で消防を維持していく事も考えられる。湖東では地区の上中下（かみ・なか・しも）の三つの区分けで連携している。ある程度大きな課題は、区や自治会が連携するような形で自治組織の改編が進んでいくと考えている。</p>
委員	<p>財政基金の取崩しが続き、10年以内に枯渇する可能性があるという説明があった。その可能性がどれくらいなのか。また、その時にはどうなるのか。</p>
平澤財政課長	<p>この財政推計は、現状で何もせずに市の運営をした場合の推計である。大きな要因は、社会保障費の増加と市の施設の維持修繕に相当な額がかかる点である。一方それに見合う収入は、国も消費税増税で対応しているがそれだけでは賄えない状況であり、また、維持修繕は市税独自財源で対応することとなる。そのためこのまま放置するとうなるということ。歳入確保や歳出削減を図っていかないとこういう推計になる。</p>
会長	<p>本審議会で、意見を述べていかなければ、こういう最悪の事態もあるということを認識いただきたい。</p>
委員	<p>政策運営では若者に選ばれるまちづくりを掲げているが、具体的な目標値を設定しているのか。大学進学で出て行く事を防ぐよりも、知識や能力を得て、都会で活動している人を呼び寄せることも一考。どのような方策を進めているのか。</p>
事務局	<p>配布資料中、第二次茅野市地域創生総合戦略に、若者に選ばれるまちの目標設定がある。基本的には生産年齢人口の維持を掲げている。本日の資料の将来展望人口は、この令和42年時点で人口4万6000人を目指すとされ、総合戦略の施策によりこの数を維持する目標。無施策では大体3万9000人程度に減少が見込まれている。</p>
委員	<p>提示資料の課題分けのうち、④施設縮減は③財政運営の手法と捉えると</p>

	<p>ができ、②政策運営の方針を設定する中でメリハリをつけることは、③財政運営がその手法と捉えることができる。議論の順番として各柱を並行的に議論していくことに疑問を感じている。おそらく各計画、総合戦略に入っていると思われるが、まずまちづくりの方針に対する大きな課題をどう対応するか方向性が決まった中で、その大方針が決まった中で財政の縮小に対するタイムスケジュールや、その手段として施設をどう減らすのか検討するなど、議論の順番が大事である。冬場に並行的に柱ごと議論することに違和感を覚える。やはり若者中心でまちの活力を上げていかないと、まちは生き残れない。そうしないと財源を確保できないことが一番大きな議論とすれば、過去の取り組みは短期的課題を議論してきたように見える。長期的な目標を設定し、その上で短期の視点による課題を検討する必要があるのでは。</p>
<p>今井市長</p>	<p>良い意見をいただいた。審議会で会議の進め方含めて委員による議論をいただきたい。大きな目標から入っていくのは一つの手法だと感じる。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>次回に、進め方含めて委員による議論をして行きたい。</p> <p>茅野市の税はどのような特徴があるのか。茅野市は特異な部分があり、製造業や観光業、農業もあり、いわゆるいい市と感じている。予想では製造業からの税収が一番多いのではないか。今後、その税収を多く得るには例えば、工場誘致による世帯増や、税収増が見込めるのでは。ほかに観光で、人を呼んで、観光業を進行していくとか。様々な戦略が描けると思う。</p>
<p>柿澤副市長</p>	<p>市税の特徴は住民税と固定資産税が半々になっている事である。例えばベッドタウンの様な自治体は住民税の割合が多くなるが、茅野市は別荘地や、工場の固定資産や償却資産が多く、ある程度賃金が伸びなくても固定資産税で担保されている。また戦略については、従来、工場団地を作り企業誘致していたが、環境との調和や適地不足によりなかなか難しくなっている。ただ、企業経営者が高齢化し世代交代の課題もあり、今の企業承継を円滑にしていくことが課題と捉えている。</p>
<p>今井市長</p>	<p>長野県全体でもやはり製造業に従事されている人が圧倒的に多い。観光業や農業は、稼ぐ産業の一面もあるが、地域のイメージづくりとして重要な役割があり、移住交流事業で、その地域でどんな農業や観光地があるかが、まず入口として非常に重要な要素を持っている。そのため観光と農業をセットで考えていく事業を展開している。しかし地元の製造業が、AIやIoTに対応するため、その分野の技術者を招くことや、サポートできる企業の誘致を展開して行く事も必要であり、立川市のIT交流会事業を始めている。</p>
<p>委員</p>	<p>全体像の検討について意見があったが、資料提示された財政推計は歳入歳出の構造がわかりやすく、非常に良い切り口である。資料5の図表では市税は、10年間で1.8億程度減少するが、歳出の見込みでは社会保障費が10年で4億程増えており、公共施設が必要とする経費が、毎年14億くらい不足する見込みとなっている。支出削減をどうするのか、それぞれの施策ごとに見ていく必要がある、まず全体を整理した中でどうしていくか議論した方が、視点として整理ができる。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後の審議会の進め方については、事務局と正副会長で検討したい。あらためて委員へ連絡いたします。</p>

副会長

9 その他

次回審議会は11月末を予定。別途調整予定。また、会議で出し切れなかった意見等は、確認表を活用いただきたい。

10 閉会

濃い内容で初回の審議会を終えることができた。進め方等は、会長事務局ときちんと相談し次回、提案したい。本日はありがとうございました。

以上